

子どもたちに日本の伝統芸能を体験してもらおうと、能楽師が能の魅力を伝える特別授業が27日、秦野市柳川の市立上小学校（市川知代校長）で開かれた。同校初の取り組みで、4～6年生の児童48人が日本独自の文化に理解を深めた。（佐々木 航哉）

秦野・上小で能楽師が特別授業

伝統文化 理解深めて



能楽師が舞などを指導した特別授業＝秦野市立上小学校

48人 児童 舞や謡を体験

竹野吉信教頭は「上小学校はクラス替えのない小規模校だけに、外からの刺激が少ない。体験型の授業を通じて文化に対する視野を広げるとともに、伝統芸能に真剣に取り組む姿勢を身に当たりにすることで、自ら夢や希望を実現するための努力につなげてほしい」と話していた。